

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげるために



「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の1つのアプローチとして、「児童の学びの姿」と、「教師の働きかけ」の双方の視点から授業改善を図ることが有効だと考えられます。双方を行き交いながら授業改善を行い、資質・能力を育成していきましょう。なお、本プロジェクト研究において、「児童の学びの姿」と児童の学びの姿を実現する「教師の働きかけ」の一例を以下のようにまとめました。授業改善を図る参考資料として御活用ください。

	児童の学びの姿	教師の働きかけ（例）
「主体的な学び」	学ぶことに興味や関心をもつ。 見通しをもつ。 粘り強く取り組む。 自分の学習活動を振り返って次につなげる。	- 児童の身近な話題や他教科等との関連を踏まえて言語活動を設定する。 - 言語活動のモデルを教師が示す場面を設定する。 - 単元の学習活動を確認し、児童が学習計画を立てる場面を設定する。 - 児童が自ら選択して学習を進めることができるように、児童一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じた教材などを提供する。 - 単元を通して身に付けることができた資質・能力を振り返る場面を設定する。
「対話的な学び」	児童同士の協働や、教職員や地域の人との対話を通じ、自分の考えを広げ深める。 本を通して作者の考えに触れ自分の考えに生かす。	- 目的に応じて、ペアやグループなど対話の形態を選択できる機会を提供する。 - 児童が自他の考えの共通点や相違点に気付くことができるように、ICTを活用して、互いの考えを比較する場面を設定する。 - 児童が自分の考えを広げたり深めたりすることができるように、学校図書館などを利用し、作者の多様な考えに触れる機会を提供する。
「深い学び」	「言葉による見方・考え方」を働かせる。 知識を相互に関連付けてより深く理解する。 情報を精査して考えを形成する。 問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう。	- 児童が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めながら理解したり表現したりする場面を設定する。 - 児童が習得した知識を相互に関連付けて、活用・発揮する場面を設定する。 - 収集した情報を比較や分類したり、関係付けたりして情報を整理し、それを基に自分の考えを形成する場面を設定する。 - 学習したことによどのような価値があるかを認識できるようにするために、実生活や既習事項、他教科等との関連を想起できるようにする。

国立教育政策研究所「[主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の視点について](#)」、佐賀県教育センター「[平成30年度 プロジェクト研究\(小学校国語科教育研究委員会\)](#)」、「[令和5年度 個別実践研究\(個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実\)](#)」を基に作成

ICTを積極的に活用するなどして、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の観点からも「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図っていきましょう。なお、授業改善の具体については、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた[授業改善事例【事例Ⅰ】【事例Ⅱ】【事例Ⅲ】](#)を御参照ください。

